

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第1回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成21年5月21日(木) 午後3時30分～午後4時00分	
会場	練馬区立開進第二中学校 セミナーハウス	
出席者	委員	生越詔二、佐藤宏、石原正義、久能正吾、一ノ瀬秀治、相田真人、小林昭文、山崎高志、須佐一（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	栗原健 指導主事

1 各委員から自己紹介と事務局からの説明

事務局

この委員会は、ようやく発足が本年度ということになった。

まず、部長だが、事務局としては、校長先生方の中からお願いしたい。いかがでしょうか。

部長

私がやらさせていただきます。

事務局

最初にスケジュールを決めたい。

【検討結果】

第2回	6月25日(木)	16:00～	練馬区役所本庁舎 11階 1101会議室
第3回	7月16日(木)	16:00～	練馬区役所本庁舎 12階教育委員会室
第4回	7月30日(木)	15:00～	練馬区役所本庁舎 12階教育委員会室
第5回	8月28日(金)	16:00～	練馬区役所本庁舎 11階 1102会議室
第5回	9月15日(火)	16:00～	練馬区役所本庁舎 11階 1102会議室

2 各委員の意見交換

事務局

配った資料は、町田市小中一貫教育の「1年次報告書」を抜粋したものであり、これが1年目に作る本区のこれから作る報告書のイメージに近いと考えている。町田市は、規範教育、規範意識、そこに非常に特化した形で絞っている。

考えなければいけないのが重点項目。どんな内容になるのか。評価的にはどんな力か、それをⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期で分けたときにはどういう流れになるのか。作るのは報告書だが、イメージは、指導資料であり、実際に授業で使う教材はどんなものができるのか、予算的にはいくらぐらいかを考えていただきたい。

委員

教材は、35時間×9年間の教材として考えればよいか

事務局

厳密に 35 時間でいくかどうか分からないが、道徳の時間に特化すればそうだ。ただ、これは道徳だけではないので、冊子を 1 冊作るとか。

品川区の資料も「規範意識」という言葉が出ている。

アドバイザー

イメージの参考までに、千代田区の小中学校の教育研究会では、下町だから、「江戸しぐさ」という資料があり、小 1 から中 3 までやる。指導事例から、リライトしたものを含めて資料化したもの。小から中までを通した指導案と資料だ。

事務局

他に武蔵村山市の例がある。こちらも道徳の領域・観点をもとにしたものになっている。

まずはこれらの資料を読んで、各区市で考えていた小中一貫教育の心の教育に関係するようなものはどんなものかということをご理解いただきたい。

その上でできればⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期を通した形で、三つとか五つとか項目を起こしていくといいのではないか。それについて次回、先生方からご意見をいただきたい。必ずしも道徳の時間だけに特化しないと考えている。

携帯電話とか情報モラルも区としての課題だと思う。

先生方のほうから、こんな資料がほしいというのがあれば、また収集をしたい。

アドバイザー

まず現状、実態把握のために、子ども規範意識等々に関する本区内の資料があればいいが、なくても同じ年代の近いものがほしい。中身をどの程度かと判断できるものがあるといい。

中身としては、とくに心の部会の場合は、日本中どこでも通じることをやるのではなく、自分の生まれ育ったものに誇りを持てるような、そこに光を当てた議論をし、そういうものがのぞくようなものにしたいと思う。

事務局

規範意識の実態については、区のセンターが作ったもの、また都教委がまとめているのもあるかもしれないので収集を試みる。

アドバイザー

いじめられたこと、いじめた回数や、母親や地域との関係などの大都市圏の子どもたちの価値意識に関する調査が部分的にもあれば考えやすいかと思う。

委員

地域の実態とか連携が重要なポイントだと思う。地域や保護者からの要望をまとめた資料、小中一貫の懇談会を立ち上げて具体的に動き出した根拠みたいなものがデータの的にあると、学校がどういうことをしてほしいと思っているのか、練馬としての地域の要望とか、特異性とか、

求められていることがわかるのではないか。

委員

昨年と今年行なわれた全国の学力調査の中に、6年生を対象にした「児童の意識調査」という項目があった。その中かなり心にかかわる部分もあったような気がする。その中で参考にできるようなものを知ることができるのかどうか。意識面の実態ということを知るうえでは貴重な資料にならないだろうか。

事務局

学力調査の研究委員会の意識部会が出したものは改めて渡せる。

部長

今回は資料を読み込んでいただき、お願いした資料を用意していただくこと。

「練馬らしさ」を出せるようなもの、練馬の保護者の意識だとか、地域の意識だとか、それから練馬の子どもの実態を反映するようなものから、何か練馬独自のものを作っていけたらということを目指してやっていく。